

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2272100377		
法人名	有限会社エーティ		
事業所名	グループホームほほえみ		
所在地	静岡県富士宮市大中里1164-1		
自己評価作成日	令和4年12月5日	評価結果市町村受理日	令和5年3月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&ji_gyosyoCd=2295300095-00&serviceCd=320&type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	令和5年1月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所が一番力を入れている点は、利用者様お一人お一人の尊重とアットホームな生活環境の提供です。利用者様が9人だからこそ、個々の尊重をできる限り大切にし、「ここに来て良かった」、「今日も楽しかったな」と思える生活を送っていただきたいと思って支援させていただいております。また、生活をしていただく場として、家庭的な雰囲気づくりを心掛けています。イベントや行事食の際には職員も利用者様と共に楽しみ、もうひとつの家族となれることを目標にしております。理念にある「ひまわりのような笑顔」で利用者様と向き合い、利用者様にも毎日笑顔で過ごしていただきたいと思っております。時には共に悲しむこともあると思いますが、共に笑って乗り越えたいと思っております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

入居時のアセスメントに加え、生活していくうえで好みや習慣を把握し、「一人で、ゆっくり部屋で過ごしたい」「お花が大好き」「ドライブが楽しみ」といった9名それぞれのライフスタイルを守りつつ、外出企画で四季折々の自然に触れ、アイデア満載のレクリエーションに興じるとともに伝統行事には旬の食材に舌鼓を打ち、手作りおやつで和むなど、共に暮らす仲間と活気あふれる場面もあります。一昨年より記録のICT化で業務の効率化を図り、時間的な余裕を散歩やおやつ作り、環境整備に充て、職員の精神的なゆとりから生まれる穏やかさが利用者に反映し、一層の笑顔を引き出すことにつながっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念にある「ひまわりのような笑顔」を管理者、職員共に大切に、事業所内が温かな雰囲気になるよう努めている。またロッカールームに理念を掲げ、始業の前に必ず読み上げる様にしている。	年度初めのミーティングで一年間の個人目標を掲げ、「笑顔」がもたらす効果について話し合っ てその実践に活かしています。開設18年を経て、15年以上勤務する職員が半数を占め、事業所が目指すケアへの理解と風通しの良さが利用者 者と職員を包んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	以前はお茶会を開催したり、地域との交流が多かったが、コロナの影響により激減している。地域の行事が開催される時には、なるべく出向き地域の方とお話をするよう心掛けている。散歩の際にも、近隣の方のご挨拶やちょっとした立ち話を大切にしている。	コロナ禍で以前のような交流はないものの、富士宮祭りに参加した地区の山車が事業所を訪れ、久しぶりに聞く躍動感あるお囃子に利用者の拍手喝采が湧きました。野菜の差し入れや庭に咲いたバラを「飾ってね」と届けてくれるご近所付き合いも変わりなく支えとなっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	官理有ぞはしめ介護職員にもキヤフハフメイトがいる為、認知症サポーター養成講座の協力依頼がある時はできる範囲で参加していたが今年度はなかった。地域の方から個々に相談を受けることはあり、その際には私たちが持っている経験談や知識をお伝えさせていただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルス感染症拡大防止のための書面開催となっている。書面には、会議でお伝えしたいことなどをできる限り記載することで、事業所の中を見ていただけても、雰囲気が少しでも伝わるよう心掛けている。コロナが少し落ち着いた際には、人数を減らし開催できる努力をしたい。	隔月の書面開催として、併設事業所である小規模多機能型居宅介護事業所の状況報告と併せ、おやつ作りや銭湯の日、誕生日会など毎月多彩な活動に取組んでいることがわかる議事録を区長、副区長、民生委員、高齢者介護支援課、地域包括支援センターに郵送しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事業所内での人員配置や新型コロナウイルス感染についての不ポイントなど、困りごとがあると市町村の担当窓口と相談し、事業所の現状の把握や、問題解決の助言をいただくようにしている。市役所に出向くことも減ったが、今後も関係性の継続を心掛けたい。	運営推進会議議事録に入居者情報、待機申込情報、職員状況や活動実績を記載して事業所の取組みを報告しています。新型コロナウイルス感染対策についての相談には都度丁寧な指導があり、年2回配信されるズームでの研修も積極的に受講して日頃のケアに取り入れています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に2回の研修の際に、禁止事項の具体例や3原則など大切なことを繰り返し学び、3ヶ月に1度の身体拘束廃止委員会を開催した際には、日々の支援方法に間違いがないかを委員を中心に話し合いを行っている。身体拘束につながりそうな事案があった時には解決方法を模索し、事例評価を行っている。	身体拘束廃止委員会議事録や研修受講後のレポート等、記録が整備され、本件への真摯な取り組みが窺えます。委員会では日頃のケアの振り返りで知識を再確認し、課題と原因究明、解決方法、代替方法を協議し、全職員が同じ意識をもって虐待に結びつくリスクを回避しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に2回の研修を行い、虐待の具体例やグレーゾーン、虐待につながる行為、職員の感情コントロールなどを学んでいる。外部で研修が行われる際には参加するように努めている。また3ヶ月に1度虐待についてや、虐待につながる行為はないか、話し合いを行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前と変わらず職員間での知識の差がある。日々のケアの中で制度の活用が望ましい方がいたので行政や家族に相談をしたが活用にはつながらなかった。また実際に直面した際にはミーティングの場を利用し職員に制度について話をしているが、知識として学ぶという点では満足に行えているとは言えない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族様にはしっかり説明を行い、不安や疑問に思うことを解消したうえでご契約いただいている。契約後のお問い合わせにも迅速に対応し、安心してご利用いただけるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の会話の中から聞き取るよう心掛けている。またご家族様とお話する機会がある時には、ご意見や要望を伺いし、できるだけご意向に沿えるよう心掛けている。	定期的な電話で体調面での変化等を伝え、意見や要望を聞いています。SNSでのやりとりが可能な家族も半数以上おり、緊急性のない内容の発信に活用しています。毎月の「ほほえみだより」とA4紙面いっぱいに掲載された写真で、ゆっくり面会できない家族の安心を担保しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案はミーティング時や日々の会話の中から聞き取るようにしている。また対等に意見を言い合える雰囲気が出ています。吸い上げたものは代表と話し合い、なるべく実現できるよう努めている。	毎月のミーティングは夜勤者以外全員が出席し、手すりの増設や段差の解消等、活発な意見交換がなされ、職員総意のもとで方向性を統一したケアが展開されています。また、個人面談の機会も設けていますが、設定日を待たずとも相談が上がっており、風通しの良さがうかがえます	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表は職員との関りや、管理者からの報告の中で個々の性格や働き方などを把握、理解している。職員の中には子育て中のお母さんがいるので、子育てしながらでも働きやすい職場作りを心掛けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々の経験年数や力量に合わせた研修に参加するよう声掛けを行っている。今年度はzoomによる外部研修も行われできる限りの参加を促し、事業所内ではその時期に合わせた内容や、必要だと思うことをテーマにした勉強会をミーティング時に行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	以前は合同運動会や交流会などが行われていたので、積極的に参加し他事業所の方と情報交換をしていたが、現在はコロナの影響で行われておらず交流ができていない。コロナ関係や助言が欲しい時には管理者同士が情報交換をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の際には不安や心配を抱えている方が多いため、なるべく解消し安心して入居いただけるよう心掛けている。また入居後は特にきめ細やかなケアをし良い関係作りに努めている。伝えることが困難な方は、日々の関りや生活歴から気持ちを感じ取れるよう心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の際には複雑な気持ちや心配、不安なことを抱えている家族が多いため、できるだけ安心してご利用いただけるよう努めている。またサービス導入後も何かあればいつでも遠慮なく言っていただけるようお声がけし、継続的な関係作りを心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談があった際に、ご家族様や担当ケアマネから困っていることを伺い、他のサービスが適切だと思った際にはそちらの提案も行うようにしている。入居後も本人の状態の変化に応じ、必要とされるサービスの提案を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「介護をする」ではなく「共に生活をする」ことらえている。人生の先輩であるため、日常生活におけるアイデアをいただいたり、職員の人生相談にのってくださることもある。また労いの言葉をいただいたり、孫のようにかわいがって下さったりと共に生活をする者同士の関係性を築いていると感じている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	共に支えあっていく者同士という関係を築けるよう心がけている。ご利用様のことで一緒に悩み、解決し、共に一喜一憂しながらご本人様を支え見守っていく関係性を継続していきたい。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前はご友人が訪ねてくることもあったが、現在はコロナの影響により、馴染みの方が来所されることはほぼなくなってきている。職員が日々の雑談の際に馴染みの人や場所のお話をしたりしている。	「読書が好き。一人で部屋でゆっくり過ごしたい」という人には、職員が毎月図書館で本を借りて来てリラックスした時間を保障したり、花好きな人には一緒に花壇作りに精を出し、活け花として楽しんだり、と大事にしてきた生活習慣を継続するための支援が光ります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒に生活をしていくうえで、利用者様同士助け合う姿が見られる。困っている方がいると職員に声をかけて下さる方もいる。職員が利用者同士の関係性を把握し、席の配置の工夫や職員が間に入り雑談を楽しむことで、孤立する方ができない様心掛けている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当事業所でのサービス終了は入院や医療メインのケアとなる場合やお亡くなりになることが多い。入院中や他の施設に移った後も、ご連絡をいただいたり、相談にのることもある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や生活歴、ご家族様からのお話の中で、一人ひとりの意向の把握に努めている。思いをくみ取ることが難しい方は、その方の様子に合わせ、無理のない生活が送れるよう検討している。また本人が出すサインに気づき、見逃さないように気をつけている。	入居前のアセスメントだけでなく、事業所での暮らしから新たな発見も多く、ドライブをきっかけに花への愛着がわかった利用者もいます。その後も折を見て誘い、車窓から眺める梅や桜に「きれいだ、今までで一番いい日になった」と喜ぶ姿に職員も達成感を得られています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントをしっかり行い、わからないところはご家族様からお話を聞くようにしている。また重要な点がわからない時には、以前の担当ケアマネに伺うこともある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の関りや生活歴などから情報を収集し、個々のライフスタイル、心身の状態、残存機能などの把握を行い、知り得た情報は全職員で共有し、よりよい支援につなげられるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画書は期間にとらわれず、ご本人様の心身の状態の変化に応じて作成している。その都度ご本人様やご家族様、主治医、介護職員など話し合いを行い、その時その方が必要としているケアを提供できるよう、心掛けています。	日常の報連相が滞りなくおこなわれているため、月に一度のミーティングや見直し期限を待たず職員から援助方法等の進言があり、これをもとに出勤職員や看護師等の意見を合わせ、都度計画を見直ししており、現状に即した介護計画が作成されています。	本人と家族の絆を視点に、援助内容の担当欄へ家族による支援も位置づけられることを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践や結果などは、介護記録に記載し、さらに申し送りすることで職員間の情報共有が出来る様に努めている。良かったケアは全職員で継続できるよう、また見直しが必要なケアについては、新たにアイデアを出し合い、効果的なケアの方法を模索している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様の心身の変化により、介護計画書の見直しを行っている。その時、その方に合ったニーズに対し迅速に対応するよう心掛けている。その際には、柔軟なサービスの提供ができる様話し合いを行い、既存のサービスに捉われないよう心掛けている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご本人様、ご家族様のお話から、地域との関りを知るようにし、事業所の地域でも同じように関りが持てるよう工夫している。入居してからはその方が持っている力を発揮し、生き生きとした生活を送っていただけるよう支援している。また		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までのかかりつけ医に行かれる方、協力医療機関の定期的な往診を受ける方がいる。認知症の進行や、身体状態の悪化により、以前のかかりつけ医に通うのが難しくなり、24時間対応の協力医に主治医を変えられる方も多い。受診に行かれる時は、同行もしくはその時必要な情報を提供し、医療との連携に努めている。	24時間連絡が取れる協力医へ7名が変更し、月2回の訪問診療があります。かかりつけ医を継続している2名は家族が受診支援し、血圧等のデータや簡単なメモを手渡していますが、周辺症状の口頭説明と必要な指示を得るために管理者が同行することもあります。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在看護師の配置がないため、知っていた情報は管理者にすぐさま報告し全職員で共有するようにしている。代表が看護師のため何かの時には相談をしている。また状況に応じ受診につなげたり、協力医に相談し、助言や薬の処方など、必要な看護を受けられるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には管理者が同行し、医療機関への情報提供に努めている。同行できないときには、担当看護師とお話しをするよう心掛け、必要な情報や物品の提供をしている。退院を踏まえた会議にも参加をすることが多い。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、説明を行いその時点でのご意向をお伺いしている。また身体の状態の変化により、意向が変わってくるご家族様がほとんどなので、そういう時には再度確認をしている。終末期ケアに入った方には、介護記録とは別に、その方のケアに沿った記録用紙にも記載し、職員間での情報共有と主治医やご家族様への情報提供と状況把握	看護師資格をもつ代表者が敷地内に居住し、すぐに駆けつけられる管理者の存在も心強く、今期も2名をお見送りしています。家族や医師との密な連絡とこまめな訪室、「常にみんなの声が聞こえるように」と最善を尽くし頑張れたと振り返り、家族からも感謝の言葉が届いています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成し、定期的に再確認を行うことで、把握と浸透を図っている。急変時の訓練は消防署に出前講座をお願いしていたが、今年度はコロナ感染が急増したため、延期となり現在まだ行っていない。実践力を身につける事への努力はまだ十分とは言えない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時マニュアルの作成を行い、全職員に浸透するよう定期的に研修を行っている。また消防署の出前講座の際に助言をいただいている。備蓄リストやローリングストックをうまく活用し、備蓄の確認と補充に努めている。	年2回の法定訓練に限らず、レスキューマットを使った搬出訓練や夜間非常時の話し合い等、2ヶ月ごとミニ訓練を重ねています。また、ローリングストックの管理方法についての協議や、常食・ミキサー食等の献立作成、ポリ袋での炊飯を日常に取り入れて有事に備えています。	積極的な取組みがおこなわれていますが、業務継続を目的とした事業継続計画の策定と運用で、必要なサービスが継続して提供できる体制の構築を期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の性格や生活歴を把握し、その方に合ったお声かけができる様心掛けています。プライバシーが保護できるよう、内容によっては居室にて1対1でお話している。言葉の選び方にも気をつけたり、本人が受け入れやすい話し方をするよう努力している。	内部研修で接遇・マナーについて再確認し、初心に帰って向き合っています。一人ひとりの対応方法は申し送りに記録していますが、1ユニットならではの一体感で自然な形で互いの支援を評価し合い「さっきの声かけ良かったね」と自尊心に配慮した対応を共有できています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	真向の仕方を工夫していただき本人様の希望を引き出せるようにしている。自己決定ができる方には、「どれがいいですか?」「何がいいですか?」と聞き、自己決定が難しい方には、「どちらがいいですか?」と二者択一の聞き方をしたりと、少しでも自己決定できるように努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活である為、すべてに沿えるわけではないが、なるべく個々のライフスタイルを大切に、その人それぞれ、その日それぞれの生活を送っていただける様努めている。希望内容によっては、家族に協力をさせていただくこともある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定できる方には、自身で衣類などを選んでいただいている。入浴後や朝の洗面時にも櫛を用意し自ら手を伸ばし、身だしなみが整えられるよう支援している。また2ヶ月に1度のヘアカットの際には、自身で髪形を伝えている方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々のできる力を見極めながら、下準備や味付けを一緒に行っている。なるべく嫌いなものがないよう代替品を用意したり、丼物も上に掛けずに別皿に、おにぎりを希望される方にはおにぎりにししたり、その都度対応している。	職員が買い物に出かけて調理する形を貫き、旬のものが食卓に並びます。雛祭の色鮮やかなモザイク寿司や敬老の日のお祝い重といった行事食をはじめ、利用者参加型の手作りおやつは、専門店の桜の葉の塩漬けを使った桜餅、三色パフェ、水まんじゅうなど趣向を凝らしています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は毎食個々に記録している。安全に召し上がっていただけるよう、食事形態もその方に合わせた形状で提供している。また持病のある方については、水分の調整、塩分の調整を私たちがができる範囲で行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の力に合わせて準備の仕方を変えながら、声掛けをし全員に口腔ケアを行っていただいている。身でできない方には、こちらでケアさせていただき、状態に合わせて歯ブラシやスポンジを変えたり、義歯の方には夜間のつけ置きをしていただいている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々のパターンを全職員で把握している。ただ高齢と共にトイレに行くことが苦痛となり、おむつ対応になった方もいる。おむつであっても便意がある時やご本人がトイレを希望するときには、介護職員2人で対応し、その方の「トイレに行きたい」という思いを尊重できるよう努めている。	記録の電子化によりパターンが把握しやすくなり、声かけのタイミングを掴んだ排泄支援がなされています。職員の援助は不要でも、排泄用品の使用方法が正しく理解できずに失敗が見受けられた利用者には、その人に合ったパッドを試行錯誤して自立につながった例もあります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表に記録している。また便秘予防として、食事の面で繊維質のものをとっていただく工夫や、運動にて自然な排便ができる様心掛けている。また朝夕の申し送り時に、個々の便の状態を報告し、全職員で把握、共有をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的にご本人様の希望に合わせて入浴をしているが、イベントや職員の配置の都合で時間が選べないときがある。また季節に合わせたお湯を楽しんでいただいたり、毎月「銭湯の日」を開催し、その際には入浴後にコーヒート牛乳やフルーツジュースを飲み、銭湯気分を味わっていただいている。	週2回を入浴の目安とし、浴槽をまたぐことが難しくなった人でも、職員二人による介助でゆっくり浴槽に浸かることができています。月に一度の「銭湯の日」は、富士山と温泉マーク、「ほほえみの湯」と描かれた手作り暖簾をかけ、檜、柚子など5種類の入浴剤を用意して寛いでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間気持ちよく寝ていただけるように、日中はなるべく活動し、適度な休息をとっていただいている。その方の体調に合わせて休息を長くすることも。また「寂しいよ」といわれる方には、穏やかな声掛けとこまめなラウンドを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々状態に合わせて服薬支援を行っている。薬が変わった時には、申し送りにて職員に必ず伝え、飲み間違えがないよう、その都度名前と日付を読み上げチェックしている。また、薬が変わった後は、本人の様子を注意深く観察し、その情報は全職員で把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の楽しみや気分転換になるよう、季節あったイベントや外出、行事食などに取り組んでいる。日常の食事の中でも、リクエストをいただいたり、おやつに皆様とお菓子を作ったりと、日々の中でも楽しみを提供できるよう心掛けている。また個々の力量や性格を見極め役割を持っていただけるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	コロナの影響により、外出の数は減ってしまっているが、お天気のいい日には散歩に出かけたり、ちょっとした外出は状況を見極めて行っている。制限のある生活の中でも楽しんでいただける模索中。	保護猫や犬に触れあえる動物病院もあり、雄大な富士山に見守られながら事業所周辺の散歩に出かけています。また、芝川の桜並木や「お浅間さん」の愛称で親しまれる浅間大社の紅葉など、職員の情報収集も活用し、人混みを避けて楽しめる名所を堪能しています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人様の希望で、こちらで管理している方がいらっしゃるが、今は買い物に出かけることがないため、自身で使用する機会はなかった。何かを購入するという事を大切にしたい、夏祭り際には、仮想のお金やチケットを使用しやり取りをした。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人からのお電話は、おつなぎしている。ただ電話の内容により本人が混乱してしまったケースがあった。夏には暑中見舞いを送っているが、送った方からお返事が返ってくることもあり、楽しみの一つとなっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間であるリビングは常に清潔にし居心地のよい空間づくりに努めている。また随時、次亜塩素酸にて手すりやテーブルを拭き衛生的にしている。季節を感じられる壁画や天井からのモビールをかざり、皆さんと眺めている。火災報知器の赤いライトが刺激になってしまう方がいるので、すぐ押せるが赤を隠すようにしている。	桜、紅葉、お正月の繭玉飾り、雪の結晶など担当職員を中心に、利用者と一緒に作品を手がけ、壁面とモビールで季節を演出しています。天井で揺れるモビールはテグスとクリップで固定し、落下しても差し障りのないよう配慮があり、こまめな消毒、換気で衛生を保っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは、気の合う者同士近くの席に座り、互いの話を聞いて笑いあっている姿をよく見かける。また休息したいが、一人は寂しいという方は、ソファで横になっていただき、皆さんの声が聞こえるようにしている。ベランダで日光浴をしながら読書をしたり、お茶を飲んだりとその時々楽しみ方ができる様お声がけをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自身が使っていた馴染みの物をお持ちいただくようにお伝えしている。場合によっては事業所の物をお使いになる方もいる。その時には、なるべくご本人様の気に入るものを用意出来る様になっている。また居室にはお写真やいただいたメッセージカードを飾ったり、本をたくさん置いたり、その方にあった居室づくりをしている。	すぐに手に取れる位置に本を置き、枕の周辺まで覆われている居室もありますが、危険がない限り整理整頓は頃合いをみておこなっています。季節の花を掛け、毎日水を手向ける仏壇や遺影がある居室、独居で身の回りの物全てを持ち込んだ居室など、その人らしさが守られています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	事業所内はバリアフリーになっており、玄関の上がり框もフラットにリフォームした。利用者さんの動線に物はおかず、エレベーターや手すりを利用することで、できるだけ自立した生活が送れるようになっている。施設内の設備で改良や増設が必要だと思ったことは代表に持ち上げ、対応してもらっている。		